

製品名: リゾホスホリパーゼ 1 (18C9) ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe04965**

研究使用のみ

概要

| | |
|--------|--|
| 説明 | 組換えウサギモノクローナル抗体 |
| 宿主 | うさぎ |
| 応用 | WB |
| 反応性 | ヒト、マウス、ラット |
| 標識 | 非共役 |
| 修飾 | リン酸化 |
| アイソタイプ | IgG |
| クローン性 | モノクローナル |
| 形態 | 液体 |
| 濃度 | 0.5mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。 |
| 保存 | アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。 |
| 輸送 | 氷袋 |
| バッファー | ウサギ IgG（リン酸緩衝生理食塩水、pH 7.4、150mM NaCl、0.02%新型保存料 N、50%グリセロール含有）。短期保存は+4°C、長期保存は-20°Cで保存してください。凍結融解サイクルは避けてください。 |
| 精製 | アフィニティー精製 |

応用

| | |
|------|-----------------|
| 希釈倍率 | WB 1:500-1:2000 |
| 分子量 | 25kDa |

抗原情報

| | |
|--------------|---|
| 遺伝子名 | LYPLA1 |
| 別名 | APT1; hAPT1; LPL1; LYPLA1; Lysophospholipase 1; LYSOPLA; LysoPLA I; |
| 遺伝子 ID | 10434.0 |
| SwissProt ID | O75608 |
| 免疫原 | ヒトリゾホスホリパーゼ 1/LPL-I の合成ペプチド |

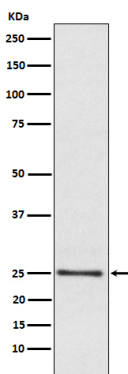
背景

三量体 Gα タンパク質や HRAS などのタンパク質中の S-アシル化システイン残基から脂肪酸を加水分解する。脱パルミトイル化活性を有し、リゾホスホリパーゼ活性も低い。アシルタンパク質チオエステラーゼとして作用する (PubMed:19439193、PubMed:20418879)。三量体 Gα タンパク質や HRAS などのタンパク質中の S-アシル化システイン残基から脂肪酸を加水分解する (PubMed:20418879)。KCNMA1 に対して脱パルミトイル化活性を有する (PubMed:22399288)。ADRB2 も脱パルミトイル化できる (PubMed:27481942)。リゾホスホリパーゼとして作用し、リゾホスファチジルコリン (lyso-PC) を加水分解する (PubMed:19439193)。リゾホスファチジリエタノールアミン (lyso-PE)、リゾホスファチジリンイノシトール (lyso-PI)、リゾホスファチジルセリン (lyso-PS) も加水分解する (類似性による)。リゾホスホリパーゼ活性よりもはるかに高いチオエステラーゼ活性を有する (PubMed:19439193)。血液凝固過程において、血漿リン脂質を認識して分解し、リゾリン脂質を生成することでリゾホスファチジン酸 (LPA) の生成に寄与する。リゾリン脂質は ENPP2 の基質として働き、LPA を生成する (PubMed:21393252)。

研究分野

グリセロリン脂質代謝

画像データ



ヒト胎児肝臓溶解物中のリゾホスホリパーゼ 1 発現のウェスタン ブロット分析。